

令和4年度 あきたスマートカレッジ B講座内容報告



チャレンジ編 ～日本語教室サポーターになろう～

～定住外国人の日本語教育を地域全体でサポートするために～

課題解決のための手法や態度を身に付け、チームでできることに挑戦します。【全受講を基本とします】

	日	時	テ	マ	講	師
B1	9/17	(土)	13:30～15:00	地域の日本語教室の現実を知り、サポーターとしてできることを考えよう	のしろ日本語学習会 代表 北川 裕子 氏	
B2	11/ 5	(土)	13:30～15:00	サポーターに必要な知識やスキルとは…日本語教室は外国人材育成の場でもある		
B3	11/26	(土)	13:30～15:00	日本語教室で学ぶ定住外国人と秋田について語ってみませんか		
B4	12/10	(土)	13:30～15:00	学びで気付いたことを共有し、地域でつながる日本語教室を考えてみませんか		

B1 北川裕子氏は、定住外国人の現状、定住・永住の違い等に触れ、サポーターにできること・できないことを4回シリーズで考えてほしいと投げかけました。北川氏が人生をかけて日本語学習支援を進めてきた中で、人に寄り添うということは大変難しいことであり、場合によっては、専門家につなぐことも大切になると話しました。年間活動である公民館等を利用した教室の様子や、バス旅行や料理教室等たくさんのイベントのエピソードから、のしろ日本語学習会は、定住外国人が日本での暮らしの葛藤や苦悩について、本音を語り合いながら成長する居場所であることがうかがえました。



B2 あいさつの様々な伝え方、あいいうえお体操、助詞「へ・で・に・を」、数字の読み方、清音・長音・促音・拗音の発音の違いを取り上げて練習しました。中でも、あいさつには様々な伝え方があることを体験し、日本語教室では人に誤解される言い方をしないように指導していることが分かりました。定住外国人支援に必要なのは、日本語指導者と同時に彼らに寄り添うサポーターではないかと思うなど、指導の裏側も教えていただきました。



B3 前半は、定住外国人3名からの話を聞き、後半は3つのグループに分かれて、受講者が直接感想を伝え合いました。「家族と日常会話をして、家族の本心を理解することが一番大事」「自分の気持ちは自分で話さなければ分かってもらえない。だから日本語を学ぶ」「なぜこんな家に生まれたのかと悩んだが、日本語教室に通って同じ境遇の人に出会い、自分で道を切り開くしかないと感じた」生きるために学ぶ受講生たちの切実なメッセージは講座受講者の心を揺さぶりました。



B4 アクセントやイントネーション、エラーから考えるコミュニケーション行動の指導法を学びました。先生は、外国人が地域に溶け込もうとする努力も必要だが、地域からのサポートが必要であること。そして、このまちにきて良かったと思える人が増えていくことが、多文化共生社会につながると結びました。4回の講座から受講者は、「外国文化を受けとめ理解したい気持ちが強くなった」「自分の日本語、自分の地域状況を見直すチャンスになった」「生きるための言葉の重要性、心の支えになる支援の必要性が分かった」と発表し合い、サポーターとして最も大切な態度を確かめ合っていました。

